

21/2/9 第37回特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議
(名古屋市民オンブズマンによるメモ)

13:30

鈴木保存整備室長：はじめる

緊急事態宣言をうけ、リモート開催

ご不便をおかけすることもある

事務局 部屋の中複数人 マスク着用

佐治所長：緊急事態宣言延長を受け、オンライン開催

会議環境の構築ありがとう

金シャチ巡回展 取り外し準備

3月上旬には地上に

議事4件

西の丸 修復作業終了 区切り

令和3年度 蔵跡追加調査付議

文化庁から、現天守閣解体现状変更許可申請

木造復元をあげるなら、一体として審議する必要ある

計画を出して

はじめて「基本構想」として付議

石垣等遺構への影響

年度内に取りまとめ、4月に文化庁に提出したい

庭園部会の

正念場を迎えた物もある

宜しく

鈴木：出席者紹介

瀬口座長、丸山副座長、赤羽、小濱、

麓、三浦、藤井、

文化庁 山下、平澤 愛知県須寄

教育委員会文化財保護室

松雄局長、名古屋城総合事務所

報告、議事 録画、録音はここまで

何卒ご協力を

資料の確認

先生にはご送付させていただいている

会議次第、出席者名簿

右肩に資料番号を統一フォーマット

1~5

1 A3 1枚

2 A3 8枚

3 A3 8枚

4 A3 1枚 A4 2枚 A3 1枚

5 A4 1枚 A3 2枚

報告 事務局より1件 西の丸毀損事件 修復

名古屋城：報告

資料1 11月に文化庁に現状変更申請

12月18日 現状変更許可を戴いた

1月6日~1月21日 作業を終了

石材に墨で注記 石材を戻した

すべて修復は終了した

名古屋城：発生から10ヶ月

先生方には貴重なご助言を戴き、ありがとう

文化庁から「重大な問題 極めて遺憾。再発防止対策を」

今後は蔵跡再調査 平面表示を再考する

引き続き慎重に進める

瀬口：全体検討会議に今後情報をいただける

修復の経緯 現地を見せてもらっていない

こういうのはしっかり全体整備検討会議のメンバーにも

見せてほしい

「十分な連絡を取りながら」空念仏に

鈴木：今後この事業に限らず、節目節目に現地を見てもらいたい

しっかり配慮したい

事務局からの報告は以上

ここからは議事 進行は座長にお願い

瀬口：進行を務める

資料の説明を戴き、構成員の皆様に意見を戴く

西の丸蔵跡追加調査

名古屋城：西の丸蔵跡追加調査

資料2-1~8

試掘を行ってきた

資料 2-2 にまとめた

蔵跡痕跡を捉えきれなかった

発掘調査を行っても発見出来ない可能性

→文献、絵図で推定する

2-3 右上、右下

資料 2-4 一番蔵 礎石は確認出来ていない

帯状の三和土が検出

資料 2-5 二番蔵

2/12 石垣部会で報告したい

瀬口：ご意見を

麓：一番蔵 過去発掘調査 ひさしの雨落ち

今回の他の蔵跡でとまへのひさしの位置確認は

六番蔵の一部

とまえをあきらかにするためにも、雨落ちがわかるように

いかがか

名古屋城：資料 2-3 金城温故録

とまえ 一番蔵、二番蔵にある 四番蔵

調査区 一番蔵、二番蔵、六番五番 設定している

ひさし どこかで引っかかるのでは

麓：六番蔵、五番蔵 とまえだけのひさしではない

金城温故録を信用すれば、六番蔵発掘調査

十分なのか

名古屋城：この範囲で把握を 捕まえられるかなと思っている

瀬口：他には

蔵の前は、ひさしがある

片持ち？柱がない？

名古屋城：構造については

三浦：すべて柱が立っている

2 間、3 間ピッチで立っている

礎石があるはず

瀬口：それがわかるように発掘調査しないのか

名古屋城：そうですね

瀬口：そうですねで終わりましたが

名古屋城：柱の痕跡が捕まえられるように調査区検討

三浦：二間または三間しか立っていない

ときどき礎石が抜かれているときも

きれいな礎石 持ち去られている可能性も

表面を削って、痕跡を探すことに

かなり広範囲

いきなりは難しい

とりあえず発掘調査 遺構面よければ南北に拡張して

礎石探しても

図面上 特定するのは難しい気がする

瀬口：ほかには

小濱：資料 過去の調査を踏まえて

目的が位置を確定する

データを見ると、一番蔵と六番蔵くらい

二番蔵 五番蔵 遺構が発見されていない

なにも出てこなかったらどう判断すればよいのか

名古屋城：なぜ出てこないか

二番蔵、五番蔵 断片的な情報しかない

発掘調査しても出てこない可能性

三番蔵、四番蔵 下が礎石抜き取られていた

破壊されていて位置がわからなかった

どこかの段階でかなり抜き取り、痕跡自体壊されていることも想定

そうした場合は、絵図の検討も併せて

位置について蓋然性の高いところを探る

小濱：二番蔵、五番蔵

出てこないのなら、発掘続けるのか、諦めるのか

名古屋城整備：蔵跡平面表示 絵図 2つ

上に基づき位置を設定

あらためて蔵跡の位置調査を進める

痕跡がないようなら、三番四番 御深井丸図に基づいて

瀬口：他には

丸山：E区 かやの近く

かやの芽が出てきているのか

名古屋城：E区 かやと近い

南側からやっていく

根が見つかったら発掘中止

天然記念物を守る

赤羽：調査によってわからない場合どうするか

御深井丸図から相対的に割り出して

わからなかった場合 平面表示やらないほうがよい

もっと調査する

拙速は避けるべき

五番蔵 コンクリート貼られている

証拠がないまま設定されている気がする

近世の遺構面の中に収まっているということで検証

実際にどこにあったのか確認する必要

コンクリートを撤去してきっちり調査した方がよいのでは

厳密な調査、拙速を避けて

五番蔵 調査区設定されているが、コンクリート撤去はなく、

外側をなぞる程度

本当の意味での位置を確定できない

麓：わからないとき

意味合い 2つ

1) 近世の遺構面が残っているが当たらなかった

→慎重な発掘調査

2) 下まで掘削されている 遺構が残っていない

→五番蔵はそういうことかも

絵図を元に位置を平面表示するのもあり

瀬口：他には

赤羽：麓先生のおっしゃること

二通り どちらということすらわかっていない
どちらか確かめることが先にありきではないか

名古屋城：調査 全てというわけではない

結果を踏まえてその時点で検討する
すぐに文献に頼るわけではない

瀬口：他はよいか

議題は追加調査の範囲を提示した。
蔵前、ひさし 意見を戴いた
難しいのではないか
その部分については追加でやれる可能性も
本日提案されていることについては了承でよいか

赤羽：私が申し上げたことはどうなった

瀬口：議題についての了解を求めている

赤羽：村木さんのいったことは

瀬口：私が言ったのは、追加調査についてよいか

赤羽：わからないことについてさらに追加調査

瀬口：本日の議題について確認

本日の追加調査 現状変更の手続きを進める
その他については事務局で議論
ここで休憩しようか

名古屋城：10分程度休憩でよいか

25分からスタート

瀬口：14:25まで休憩

14:17

14:25

瀬口：特別史跡名古屋城跡基本構想 木造復元について

鈴木：先程の結論確認

案 手続きは進めるが、今後

現場など先生方にご覧いただいて、相談の上検証して進める

瀬口：そうですね

かやの根

麓委員 調査区が広がるかも

基本的にはこの案

議題以外の意見

その日に取り上げない

議事が決まっている

次回以降の議事で取り上げるのを検討

鈴木：議事 2

名古屋城：解体の現状変更許可申請

木造復元なら、具体的計画の追加提出を

追加提出資料

基本構想をまとめるにあたり、文化庁と相談した

将来の本丸の姿

保存活用計画でまとめた

要点を絞って説明する

3-1 経緯

右側 本質的価値、目標、基本方針

5つ基本方針

2-3 エリア

資料 3-2 現在

赤枿が重要文化財

資料 3-3 将来構想

4つ

櫓なども段階的に復元する

便益施設 外観をあらためたものにあらためる

資料 3-4 基本理念

基本方針

資料 3-5 木造天守の整備基本構想

概要と課題

資料 3-6 意義と課題

3つ

復元の課題

石垣への影響

価値保存

バリアフリー

類例のない大規模木造工事

資料 3-7 整備方針

木造復元の方が効果がある

基礎構造の考え方

12月 文化庁から「これ以上傷付けないように」意見を戴いた

資料 3-8 公開活用の考え方

記録・記憶の継承

14:47

瀬口：発言する場合、資料の何ページか言って

いらっしゃいませんか

小濱：本丸の復元整備計画

3-2 現況

3-3 将来構想案

お城の写真 3-4 多聞櫓 一連にあるのが城の風格

ぜひ多聞櫓を復元を

3-3 何が必要か

土塁 スペースが小さくなるのでは

大勢の人が中に入る

安全上問題が出るのでは

どういうふうを考えるのか

復元 土塁

不特定多数の観覧 スペースの兼ね合いは

名古屋城：多聞櫓 復元と書いてある

復元手法を検討

明治濃尾地震 除却

絵図、古写真ある
詳細な図面はない
安全性はどうなるか 土塁は形状を残している
避難経路 必要であればもうける

瀬口：ほかは
特にないようだが

麓：今回この資料全体を要領よくまとめたと思う
もちろん、特別史跡 本質的価値を保存 大前提
一方では遺構の顕在化 石垣、礎石だけでは
一般の人には理解できない
こんな風にかつての江戸期の本丸を中心に
復元整備 方針はいい方針だと思う
時間的にはまだまだ 資料 3-3 までいくには何十年もかかると思う
特別史跡としての本質的価値を守りつつも、
史跡の価値をむしろ高めるために木造 史実に忠実に復元
名古屋城では、他の城郭とは比べようがないほど調査、記録がある
そういうものをつかって史実に忠実な復元ができる
書かれていることは大きな内容のことが書かれている
全体のまとめとしてもよいと思う

赤羽：これまでの論点が整理されている 評価したい
逆に、資料 3-5 平成 30 年 5 月 保存活用計画に立脚
平成 24 年 12 月 増補案があった
現在の天守閣の存在意義がクローズアップされてきた
資料 3-3 将来
なにも木造天守にしなくても、現在の天守を生かして
本丸御殿もあること
修理すべき石垣も修理すれば、
新しい木造天守以上に、今残っている櫓を利活用すれば
当時の本丸の姿 知っていただけののではないか
30 年 5 月 保存活用計画 木造天守になってきた
24 年 耐震補強 バリアフリー充実
とっていけば、本丸を中心とした雰囲気
市民の方に訴えられる
基本構想に、私は現天守をきちんと守って行きたい
もっと現天守を丁寧に生かしていく

現在の課題、法的な課題
資料の中身でクリアできるのか 疑問に思うところがある
現天守を守りながら
平成24年プランに戻るべきと主張したい

瀬口：他の委員のご意見

麓：今の赤羽委員 見解
木造復元するか、SRC耐震改修するか
意見を言われているような気が
今のこの段階 全体整備検討会議 議論するのはおかしいと思う

赤羽：「木造天守を追求する」書いてある
意見を言った

麓：損なうことのないように進めると書いてある
それをもう一度今の天守残すか復元か
遡るのは今の段階ではふさわしくないのでは

赤羽：「決まったので進めよう」

麓：名古屋市が決める
全体整備検討会議が妥当かどうか申し上げるべき
大方針を我々が意見をだすのはどうか

赤羽：いろいろ意見を出すのが正しいのでは

三浦：赤羽先生のいわれることはごもっとも
麓先生 これからの進め方
将来の計画を出された
天守だけでなく多聞櫓、城門 復元する
名古屋城 明治維新の姿
世界的な問題
明治五年 取り壊しの憂き目にあった
ドイツ公使が来て、素晴らしさ
保存の第一歩
保存の意義が忘れられたとき、陸軍大佐
名古屋城、姫路城を永久保存する

城 200 くらい→名古屋と姫路が永久保存
当時の姿 日本の宝が認められた
濃尾大震災 空襲 遺構はある
豊富な資料がある
名古屋城本丸 非常に意義がある
極めて重大なもの
もともとの基本構想を絵にした
保存のことについては決まっていたこと
何十年とかかる
元の姿に戻す 歴史的な価値 非常に高まることは間違いない
現在の天守 非常に価値がある
現時点で中性化 耐用年数 30 年
耐震診断 極めて脆弱 震度 7 で 100%倒壊の危険
耐震補強 耐用年数が延びるわけではない
元の姿に戻す 時間を延ばすだけ
現在のコンクリート 価値があるが、
木造の価値の方がはるかに高い
本質的な価値を高める
名古屋城全体を元の姿に高める 広大な計画を足踏みさせる
30 年後取り壊し 経費の二重
どちらが優れているか 木造天守が妥当と結論づけた
資料に示しているように、このまま進める 本質的価値を高めるのが妥当と思う

瀬口：他には
藤井委員は
皆さんに意見を聞きたい

藤井：木造 構想そのものには賛成
もう一度鉄筋を作るのは将来十分展望を持ち得ない
歴史的にもっていた意味は記録し、展示に生かす

丸山：3-3 図面 多聞櫓姿
搦手馬出デザインが気になる
10 年後ここはどうなっているのか
どうせ多聞櫓を書くなら、馬出も丁寧に復元書いて
ついでに二之丸庭園どうするか
櫓 こういう構想であれば、二之丸庭園も
櫓的に作られている

こういうものも考えて

木造 部会で議論されている 経緯もある
三浦委員 名古屋市はこういう意見を持っている
図面 もうちょっと丁寧に書いて欲しい

小濱：三浦先生 うまくまとめていただいた

私も木造復元意義を認める

これから復元 意義がある

耐久性 やっぱり木造の方が 100 年 200 年持ちこたえる

鉄筋コンクリート 中性化などある

経年劣化する

どうやって処理するか

一体構造難しい

木造 板を取り替えればよい

文化財でやればよい

100 年 200 年 500 年持つ

耐久性の面から木造が望ましい

瀬口：本日まとめるわけでもない

3-3 将来的な構想が実現すると素晴らしい

日本の城郭にはない

天守閣 鉄筋コンクリートなら、特別的価値を誤らせることに
誤解を招くのでは

名古屋市長期計画 少しずつ進めるのならば進んで
ちょっと質問

3-5 経緯 国宝の障壁画が戻ってくる

展示するスペース 鉄筋になる？

昭和 20 年代を書いておいては

観光協会が名古屋城が決定

行政、民間団体 そうということが後押ししている

名古屋の都市計画 石川さん

再現 時代遅れだからやらないほうがよい

城戸久 鉄筋コンクリート

今日の議論 RC 大切だ

本質的価値 木造もある

当時も同じような議論がされていた

これは意見 検討して

名古屋城：検討する

瀬口：一通り意見を聞いた

文化庁 山下、平澤

この基本構想 比較的にどっちをとるか
名古屋市としてはこういうふうにしたい
なにか意見があれば

山下：審議ありがとう

議題については、「文化庁から宿題に対する回答」

多くのことを言うのは差し控える

3-2、3-3

どう整備するか明確になった 評価する

天守閣だけではなく、名古屋城全体

本丸 全体として、名古屋市としてどう整備するか

大事だと思う

まとめる方向は益するところが多いと思う

平澤：山下がいった

様々な議論ある

今重要なことが踏まえられている

第三専門調査会、文化財部会で議論する

その議論の提供 さらに資料を洗練、整理してほしい

瀬口：方向性は益するところがある

宿題がたくさん出されている

名古屋市として着実に答えていただく

前に進まない

今日の議題 文化庁の会議の元になる

ちょっと修正した形で文化庁に提出するのでよいか

よろしいか

反対がないようなので、宿題はあるが、

文化庁に提出する手続きを進めて

議題3 二之丸庭園

15:20

名古屋城：説明員の入れ替え

令和3年度の二之丸庭園の修復整備・発掘調査について

12/3 全体整備検討会議で議論

庭園部会で検討

資料 4-1

資料 4-2

15:26

瀬口：意見は

三浦：資料 4-1 樹脂等で接着と書いてある

樹脂の耐用年数 石よりはるかに短い

まずいのではないか

代替案がなかなか無い

昨年原爆ドーム 鉄筋コンクリート部材 大きな亀裂いっぱい

1ミリ-2センチ 様々な亀裂

エポキシ樹脂案→保障がない

セメント系接着剤 開発した

大型注射器何カ所か 指で押して注入

亀裂の幅 混ぜる骨材を変える

その辺を調べて検討を

小濱：樹脂で接着 耐震補強 エポキシ樹脂をよく使う

表に露出しない 温度に弱い

紫外線にも弱い

どうしても使うのなら被覆して紫外線があたらないように

樹脂で接着強いのがエポキシ樹脂 使わないように

セメント、モルタル系の方がよいのでは

余芳東側発掘調査 なにがでてくるかわからないが

絵図 どんな物が期待されるか

名古屋城：絵図 重ねた物を画面共有で見せたい

赤色 発掘予定図

大きなべだん 検出できないか

園路の飛び石が確認出来ないか

名古屋市：材料 ありがたいお話

こちら検討したい

表面の紫外線対策 内部の接着はエポキシ樹脂

表面 骨材とアクリル混合 考えていた

モルタル系材料を検討したい

瀬口：他には

よろしいか

範囲は特によいか 文化庁の現状変更が必要

結果は全体整備検討会議に報告を

続いて4番目 整備計画

名古屋城：二之丸庭園整備計画

12/4 議論を踏まえて庭園部会で検討した

5-1

全体の図は検討中

瀬口：意見は

小濱：二之丸庭園の復元

5-2 現況図

5-3 修復図

歴史的な庭園の成り立ち 存じ上げない

園路が復元の図と変わっていない

いつの時代の園路か

名古屋城：現況図に重ねている

今後の整備 次回

復元する園路は絵図

小濱：江戸時代と違うのか

名古屋城：昭和の時代に公園的整備された

瀬口：二之丸庭園 課題総括図

北園地復元 前水面があったか根拠がない

返事だったはず

根拠が出てきたのか

名古屋城：水面の根拠

近世水の導水路 発見されていない

三和土、陸軍記録 池に水 鯉が泳いでいた

明治期には池

瀬口：明治期であって、近世ではない

名古屋城：江戸時代に整備

明治期に手が加えられている

発掘調査 絵図

北園地 池底からも池に手を加えられた形式

瀬口：水面の復元が

江戸時代は水面はなかった

丸山：水面があった証拠が三和土

なぜこの池 防火のためだろう

絵図との比較 水はなかった？

水は当然なければ三和土

瀬口：明治になってから池が作られたのでは

丸山：護岸で三和土

下にあるのは、水をためるため

普通の庭 護岸に自然石

瀬口：だからといって、水面があったとまらない

丸山：三和土があるから水面がある

瀬口：三和土は近代のものだという議論があった

近世

近代 三和土なら、近世は水があったかわからない

やり過ぎでは

確認しないとまずい

丸山：近代 池底をあらたに補修

下は近世

瀬口：近世の三和土がある

丸山：南池 三和土で池底を固めている
周りだけ石を並べる

瀬口：前に調べたとき 明治に三和土を打った記録がある

丸山：近代に打った

瀬口：資料を見せて欲しい
まだ出ていない
納得しない
資料を見せて

丸山：事務局が見せてくれる

名古屋城：座長おっしゃるとおり、三和土年代示せない

瀬口：書きすぎ

名古屋城：大きな方向は池の復元
水面も復元したい

瀬口：慎重に

名古屋城：池の復元はさらに検討が必要

藤井：いいそびれた

西の丸追加調査 金城温故録 絵図がある
精度 いろんな遺跡、石垣 寸法が書いてある
現実にどの程度正確なのか 検証をしていただけないか
おそらく米蔵の位置関係の議論もきちんと出来る
確実にわかる部分でやって

瀬口：ほかには
藤井さん全体
庭園の方けりをつけたい
引き続き検討したい
全体についてご意見を
丁寧な検証をやるように

今日思ったが、西の丸の蔵の名称
第三御蔵 御が消えた理由は
勝手に名称を変えるのは可能か

名古屋城：ちょっと待って
御とついているのはどこか

瀬口：これまでは全部付いていた
名称を勝手に粗雑に扱っていいのか

名古屋城：名称についてはもう一度

瀬口：気を付けてね
物が変わったかと思った
他にはあるか
なければ本日の議題 いろいろ意見が出た
長引いたが議事を終了したい
進行を事務局に

鈴木：ありがとう
お時間 20 分強超過
以上で終わる
15：52